

## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月14日

上場会社名 株式会社レーサム 上場取引所 東  
 コード番号 8890 URL <http://www.raysum.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小町 剛  
 問合せ先責任者 (役職名) 上級執行役員管理本部長 (氏名) 片山 靖浩 TEL 03-5157-8881  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	3,242	△58.4	△391	—	△456	—	△336	—
2020年3月期第1四半期	7,802	7.1	669	△31.9	578	△42.8	445	△30.9

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △323百万円 (—%) 2020年3月期第1四半期 464百万円 (△8.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△9.20	—
2020年3月期第1四半期	11.59	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	87,774	45,608	52.0
2020年3月期	91,502	49,040	53.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 45,607百万円 2020年3月期 49,040百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 2021年3月期の配当につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定が困難なため、記載しておりません。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

連結業績予想につきましては、現時点で新型コロナウイルス感染症の拡大が事業活動及び経営成績に与える影響を合理的に見積ることが困難であることから、未定としております。今後、合理的に見積ることが可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	46,081,400株	2020年3月期	46,081,400株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	9,693,586株	2020年3月期	8,101,586株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	36,569,491株	2020年3月期1Q	38,449,886株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高3,242百万円（前年同四半期比58.4%減）、営業損失391百万円（前年同四半期は669百万円の営業利益）、経常損失456百万円（同578百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失336百万円（同445百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた期間でありましたが、国内の経済活動は徐々に再開されてきており、感染拡大の防止策を講じつつ見通し不透明ながらも社会経済活動レベルの段階的な引上げに備えている状況であります。引き続き、長期化のリスクを踏まえながら収束後の迅速な対応に備えてまいります。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

## (資産運用事業)

当事業では、富裕層のお客様の資産内容や事業承継及び相続対策等の目的に沿ったスキームを、個々のお客様ごとに考え、これに対応する将来性のある物件を提供します。取扱商品は、商業、オフィス、マンション、宿泊施設、教育施設、医療施設等と多岐にわたり、価格帯は数億円から百億円を超える規模に及びます。

さらに、将来の社会的課題に応じ家賃負担能力を高められる事業を自ら創り出すオペレーション型の商品開発にも取り組み、コミュニティホテル、高度医療手術センター、地元定着型の飲食店などを立ち上げ、これらを組み込んだ商品を提供しております。

当第1四半期連結累計期間の当事業の売上高は、1,918百万円（前年同四半期比67.7%減）、セグメント損失は100百万円（前年同四半期は608百万円のセグメント利益）となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動制約の影響はあったものの、仕入においては当社として十分な価値をつくれる案件をしっかりと選別し見極めて行い、開発案件や大規模改修が必要な工事については拙速な対応を控え、商品化のタイミングを見計らいながら取り組んでまいりました。

販売面においては、特に個人のお客様の投資意欲は引き続き根強く、長期の資産運用を目的として短期的現象には左右されていないと感じておりますが、お客様においても慎重に状況を見極められています。

このような状況下でこそ、本当に必要なものが生き残る時代であるとの認識の元、更に創造のアンテナを研ぎ澄ましてまいります。

## (プロパティマネジメント事業)

当事業では、当社から収益不動産を購入され保有されるお客様の不動産保有目的を実現させるため、様々な用途の不動産の最有効活用を追求し、最適なテナントの誘致や各種調整を図り、きめ細かい建物賃貸・管理サービスを行っております。

新型コロナウイルス感染症拡大による社会活動の制約により、家賃延滞や減免の要請、滞納の発生、退去の相談等のリスクを認識していましたが、当第1四半期連結累計期間では大きく顕在化してきておらず、個々のテナント様に対して注意深く丁寧な対応を行ってまいりました。

当第1四半期連結累計期間の当事業の売上高は1,131百万円（前年同四半期比11.5%減）、セグメント利益は292百万円（同8.7%減）となりました。

## (その他の事業)

当事業では主に、連結子会社である㈱アセット・ホールディングスが「レーサム ゴルフ&スパ リゾート」の運営を、㈱WeBaseがコミュニティ型ホテルの運営を、㈱LIBERTE JAPONがフランス・パリのパティスリー・ブーランジェリーの日本での店舗の運営を行っております。また、㈱レイパワーが環境エネルギー事業としてガスエンジン発電機を開発、製造、販売を行い、㈱ベストメディカルが高度医療の支援事業を担う支援先クリニックの立ち上げ支援を行っております。

当第1四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛、移動制限等の影響を㈱アセット・ホールディングス、㈱WeBase、㈱LIBERTE JAPONが受けた期間でありました。ただし、経済活動再開に向けて各事業、社会的インフラとしての役割を全うするため、感染拡大の防止策を講じつつ、事業活動は継続し、更なる地域社会との繋がりを強化すべく、出来る事に真摯に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の当事業の売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を直接受けたこともあり192百万円（前年同四半期比66.7%減）となり、セグメント損失は441百万円（前年同四半期は117百万円のセグメント損失）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①財政状態の変動状況

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4,410百万円減少し、76,796百万円となりました。

これは主に、現金及び預金が12,121百万円減少して17,204百万円となり、販売用不動産が2,191百万円増加して32,687百万円、仕掛販売用不動産が5,141百万円増加して23,036百万円となったことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて682百万円増加し、10,977百万円となりました。

上記の結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて3,728百万円減少し、87,774百万円となりました。

## (負債)

負債は、前連結会計年度末に比べて295百万円減少し、42,166百万円となりました。これは主に、物件販売に伴う契約手付金減少等による前受金の減少195百万円、物件工事費等による未払金の増加1,024百万円、新規の資金調達と借入金の返済による差額で借入金の減少1,202百万円、物件仕入に伴う預り敷金の増加104百万円が主な要因であります。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,432百万円減少し、45,608百万円となりました。これは利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により336百万円減少し、剰余金の配当により1,709百万円減少したこと、並びに自己株式の取得により1,399百万円減少したことが主な要因であります。

なお、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は52.0%となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末に比べて12,121百万円減少し、17,204百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な変動要因は、次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、7,626百万円の減少となりました。主な増加要因は、資産運用事業における売上高1,918百万円に係る資金増加であり、主な減少要因は、資産運用事業における販売用不動産の仕入の支払額7,727百万円と仕掛販売用不動産の開発進展並びに販売用不動産の改修工事代金の支払額770百万円、及び販売費及び一般管理費の支出に係る資金減少であります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、238百万円の減少となりました。主な増加要因は、出資金の払戻による収入70百万円であり、主な減少要因は、関係会社株式の取得による支出133百万円、有形固定資産の取得による支出76百万円、貸付けによる支出74百万円であります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、4,251百万円の減少となりました。主な減少要因は、新規の資金調達と借入金の返済による差額での減少1,202百万円、自己株式の取得による支出1,399百万円、及び配当金の支払額1,641百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で新型コロナウイルス感染症の拡大がどのようなタイミングで収束に向かうか不透明な状況であり、事業活動及び経営成績に与える影響を合理的に見積ることが困難であることから、引き続き未定としております。今後、合理的に見積ることが可能となった時点で速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,325	17,204
営業未収入金	335	199
販売用不動産	30,496	32,687
仕掛販売用不動産	17,894	23,036
前渡金	1,171	1,087
未収還付法人税等	48	34
その他	1,947	2,560
貸倒引当金	△13	△12
流動資産合計	81,207	76,796
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,973	1,941
土地	1,176	1,209
その他（純額）	1,333	1,946
有形固定資産合計	4,483	5,097
無形固定資産		
その他	411	393
無形固定資産合計	411	393
投資その他の資産		
投資有価証券	2,469	2,477
繰延税金資産	1,116	1,238
出資金	80	10
長期貸付金	988	1,059
その他	744	699
投資その他の資産合計	5,399	5,485
固定資産合計	10,294	10,977
資産合計	91,502	87,774

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	1,071	1,077
未払金	1,156	2,180
未払法人税等	3,414	3,414
前受金	939	743
賞与引当金	10	10
関係会社整理損失引当金	123	123
その他	1,632	1,615
流動負債合計	8,346	9,165
固定負債		
長期借入金	30,106	28,897
流動化調整引当金	0	—
預り敷金	3,915	4,019
その他	93	84
固定負債合計	34,115	33,000
負債合計	42,461	42,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	12,160	12,160
利益剰余金	48,553	46,507
自己株式	△11,817	△13,217
株主資本合計	48,996	45,550
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△31	△17
為替換算調整勘定	75	74
その他の包括利益累計額合計	44	57
非支配株主持分	0	0
純資産合計	49,040	45,608
負債純資産合計	91,502	87,774

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	7,802	3,242
売上原価	6,116	2,682
売上総利益	1,685	559
販売費及び一般管理費	1,016	951
営業利益又は営業損失(△)	669	△391
営業外収益		
受取利息	4	6
受取家賃	1	1
受取給付金	—	4
その他	5	3
営業外収益合計	11	16
営業外費用		
支払利息	65	63
財務手数料	0	3
為替差損	32	9
その他	3	3
営業外費用合計	101	80
経常利益又は経常損失(△)	578	△456
特別利益		
投資有価証券売却益	127	—
事業譲渡益	—	2
特別利益合計	127	2
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	706	△453
法人税、住民税及び事業税	65	1
法人税等調整額	195	△118
法人税等合計	260	△116
四半期純利益又は四半期純損失(△)	445	△336
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	445	△336

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	445	△336
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	14
為替換算調整勘定	21	△1
その他の包括利益合計	18	13
四半期包括利益	464	△323
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	464	△323
非支配株主に係る四半期包括利益	—	0



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	706	△453
減価償却費	93	91
賞与引当金の増減額(△は減少)	3	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
流動化調整引当金の増減額(△は減少)	0	△0
投資有価証券売却損益(△は益)	△127	—
受取利息及び受取配当金	△4	△6
支払利息	65	63
売上債権の増減額(△は増加)	13	136
販売用不動産の増減額(△は増加)	2,547	△2,199
仕掛販売用不動産の増減額(△は増加)	△3,528	△5,141
事業譲渡損益(△は益)	—	△2
前渡金の増減額(△は増加)	78	△191
預け金の増減額(△は増加)	△6	△178
前受金の増減額(△は減少)	45	△195
未払金の増減額(△は減少)	△301	758
未払又は未収消費税等の増減額	356	△252
預り敷金の増減額(△は減少)	101	165
その他	95	△158
小計	138	△7,568
利息及び配当金の受取額	4	6
利息の支払額	△65	△63
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,217	△1
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,140	△7,626
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△19	△76
投資有価証券の売却による収入	500	—
出資金の払込による支出	△151	—
関係会社株式の取得による支出	—	△133
貸付けによる支出	△80	△74
出資金の払戻による収入	—	70
事業譲渡による支出	—	△56
その他	0	33
投資活動によるキャッシュ・フロー	250	△238
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	△1,000	—
長期借入れによる収入	4,050	300
長期借入金の返済による支出	△2,767	△1,502
自己株式の取得による支出	—	△1,399
配当金の支払額	△1,667	△1,641
その他	△7	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,392	△4,251
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,289	△12,121
現金及び現金同等物の期首残高	22,075	29,325
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,785	17,204

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年3月31日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,592,000株を取得いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が1,399百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が13,217百万円となっております。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

## I. 前第1四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	資産運用事業	プロパティマネ ジメント事業	その他の事業			
売上高						
外部顧客への売上高	5,945	1,279	577	7,802	—	7,802
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	5	5	△5	—
計	5,945	1,279	582	7,807	△5	7,802
セグメント利益 又は損失（△）	608	320	△117	811	△142	669

(注) セグメント利益又は損失の調整額△142百万円は、各報告セグメントに配分していない、一般管理費等の全社費用△142百万円及びセグメント間取引消去0百万円であります。この調整額を差引いた後のセグメント利益の額は、四半期連結損益計算書に計上している営業利益の額669百万円と一致しております。

## II. 当第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	資産運用事業	プロパティマネ ジメント事業	その他の事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,918	1,131	192	3,242	—	3,242
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	36	11	48	△48	—
計	1,918	1,168	203	3,290	△48	3,242
セグメント利益 又は損失（△）	△100	292	△441	△249	△142	△391

(注) セグメント利益又は損失の調整額△142百万円は、各報告セグメントに配分していない、一般管理費等の全社費用△142百万円及びセグメント間取引消去0百万円であります。この調整額を差引いた後のセグメント利益の額は、四半期連結損益計算書に計上している営業損失の額△391百万円と一致しております。